

ダルニフォーラム

第二十九号

2019年3月

www.edfthai.org/jp

奨学生レポート：2019年3月に卒業する予定のチョークさん

先生の暖かいご指導と奨学金を提供戴いた方の心優しい励ましが大きな力を与えてくれました。



蚕の世話をする祖母の仕事を手伝っているチョーク(中1のときの写真)



ボーイスカウト制服のチョークさん



チョークとソムキット先生

ソムキット・カミガンワン先生は、チョークの問題について、次のように述べています。

「中学3年生というのは、チョークを含めてたくさんの生徒にとって、一つの分岐点です。というのも貧しい家庭の子供のほとんどは、両親が離婚してそれぞれに再婚し、新しい家族と暮らしているという状況です。彼らの両親は、子供を連れて行かず、彼らの養育を祖父母たちに押し付けてしまいました。これらの子供たちは、面倒をしっかり見てくれる保護者がいないので、中学を卒業できないかもしれな

いという危険を抱えています。そこで、教師は、教師の務めと同時に、保護者という役割も果たさなければなりません。」

「チョークは、成績は中程度ですが、真面目に勉強する子供です。素直で先生たちの言うことを良く聞きます。チョークが、勉強のことで問題があった時でさえ、問題解決に向けて、チョーク自身とも彼の祖父母たちとも話し合うことができました。もっと言えば励ますこともできました。だからこそ、チョークは気持ちを入れ替えて、以前のように勉強するようになったのです。それまでより責任感が強くなったと思います。

チョークが元通り真面目に勉強するようになった理由のもう一つ重要なことは、心優しい支援者からの奨学金をもらえたということです。彼は、それに元気づけられましたし、学校で使うお金の心配が無くなったからなのです。」

「僕がもらった奨学金は、中学3年の1年分だけではありませんが、僕は、両親と祖父母のような家族たちや、勉強のことでずっと僕を助けてくれた先生たちだけでなく、顔を合わせたこともないのに奨学金を援助してくれる人がいるということを知りました。その方は、思いやり深く親切にも僕に奨学金をくれましたが、それは僕が勉強していくのに、とても大きな励みになりました。僕は、その方の思いやりの心に本当に感動しました。」

と、チョークは、語っていました。

中学を卒業した後、チョークは職業系のコースに進学したいと思っています。ナーンローン工業高等専門学校(ナーンローン工業高等専門学校)の溶接技術者学科です。職業系のコースへ進学を希望する理由は、卒業した後、プリラム県内で就職することができるからです。そうすれば、バンコクのような所まで行かなくても、祖父母や妹の世話をすることができますから。



チョーク、妹と祖母

名前:ワッター・グートナイラー ニックネーム:チョーク
年齢:16歳 学校:プリラム県バーンペンパイ中学校の3年生

チョークは、2018年度の奨学金で1年分(Cタイプ)をもらっていて、この来月に中学校を卒業することになっています。チョークの両親は、離婚しています。母親は再婚して、新しい夫のもとへ行ってしまいました。チョークは、父親、祖父母、妹と暮らしています。祖父と祖母は、プリラム県の「足るを知る経済センター」に雇われて働いています。祖父は、魚を養殖したり野菜を栽培したりして、それらを収穫し、村へ売りに行くのが仕事です。祖母は、織物用の生糸を作るために飼っている蚕の世話をするのが仕事です。父親は、建設現場で働くのを仕事にしています。それで、何か月もの長い期間、他県へ働きに行かなければならないので、たまにしか家へ帰って来ません。だから、チョークと妹は、祖父母と一緒に暮らしています。家庭内でかかる費用は、祖父と祖母が働いて得た収入で、全部まかなっています。二人の収入を合わせておよそ5千バーツですが、それで食費、水道代、電気代、チョークと妹の二人が学校で使うお金、そして時々自分たちが具合の悪い時にかかる病院の診察代にも充てています。放課後、チョークは時々、蚕の世話をする祖母を手伝いにセンターへ行きます。蚕についての知識が得られるだけでなく、祖母の仕事を早く終わらせることができるからです。そして一緒に家へ帰ります。

しかし、祖父母は月曜日から金曜日まで、朝7時から夕方6時まで働いていますので、チョークの面倒を見る時間がありません。そのためチョークは、友だちと遊ぶのが面白くなって、時には勉強を怠けたり、それほど真面目に勉強しなくなったりしたことがありました。そんな時、バーンペンパイ中学校でEDF財団の奨学金を担当しているソムキット・カミガンワン先生が、チョークを見守って注意を与え、いろいろなアドバイスをしてくれました。そのお蔭でチョークは立ち直り、中学校卒業を目指して一生懸命勉強するようになりました。

職場の仲間の方々のご寄付を集めて 「ダルニー奨学金」をサポートいただけませんか。

私共の活動は、これまで企業から様々な形でご協力いただいております。例えば、企業の社会貢献活動の一環としての企業からのご寄付や、社内のゴルフコンペやオークション等、種々のイベントにより募金していただく例も多くあります。今回提案させていただくのは会社や団体の活動予算からのご寄付ではなく、職場の皆様が簡単に参加できる募金活動です。子どもたちがお小遣いの中から貯金箱に毎日入れて貯めるというようなコンセプトで、従業員の方々の任意のご寄付をEDFが提供する募金箱に入れていただくというものです。金額の多少に関係なく企業の従業員の皆様が幅広く気軽に参加できるような募金活動で、企業と従業員の社会貢献に対する一体感が生まれるのではないかと思います。

協力いただける企業

職種、サイズを問わずご協力をお願い致たく存じます。

募集期間

この活動にご協力いただける企業を、2019年3月から4月末まで募集致します。お申し込みをいただき次第すぐに募金箱をお送りします。

募金実施期間

2019年4月1日～5月31日まで(2ヵ月間)

ご協力方法

ご協力いただける企業は、この活動のご担当をお決め頂き、従業員の皆様からご寄付を募って、EDFがお送りする募金箱(サイズ: 奥行10x 縦15x 横16 cm.)にご寄付金を入れていただきますようお願い致します。実施期間が終わりましたら、EDFスタッフが募金箱を回収に伺います。

ご支援に対しEDFからお届けするもの

- ・ 税控除対象の領収書
- ・ ご希望によりませんが、2,000パーツになった場合1人の中学生に奨学金として提供します。7月頃に当奨学生に奨学金を支給の上、EDFよりその奨学生の報告書を企業宛に送付します。この様な報告書が不要の際には、EDFの運営費にご寄付戴く方法もあります。

連絡先

EDF日本企業CSR担当窓口(日本語可) Tel: 02-579-9209-11
Mr. Anuchat (アヌチャート) Email: anuchat@edfthai.org



活動報告



留学生のグループ「Think」が奨学金ご寄付

2018年11月8日: タンマサート大学で留学中の日本人グループ「Think」の代表がEDF事務局を訪問しました。今回、フリーマーケットで売れた中古品の売り上げをご寄付いただきました。この寄付金は2019年度中学校に進学する子ども達への奨学金として役立てられます。



SPTM Internationalが奨学金ご寄付

2019年2月7日、EDF事務局でSPTM Internationalの常務取締役のMR. AZUMA FUJITA(右側から3人目)より10,000パーツの奨学金をご寄付頂きました。



和歌山大学の2019年タイ視察旅行

2019年2月12日～2019年2月23日の間、和歌山大学の教師、学生たち18名はタイの文化・伝統を体験する目的で来泰、2019年のタイ視察旅行のプログラムを実施しました。今回はタイ北部にあるチェンライ県のメアタムタッドクワン・ウィッタヤーコム学校を訪問、又、日系企業バンコックキャンマニュファクチャリング(BCM)社とダイキン インダストリーズ(タイランド)社の工場を見学しました。